

# ハーモニー

Harmony

第 61 号 2013 年 6 月 14 日発行  
日本養護教諭教育学会

Japanese Association of Yogo Teacher Education

日本養護教諭教育学会

事務局：〒 448-8542

刈谷市井ヶ谷町広沢 1

愛知教育大学養護教育講座  
後藤研究室

TEL&FAX 0566-26-2491

振替口座：00880-8-86414

<http://www.yogokyoyu-kyoiku-gakkai.jp>

## 目 次

2013年度の学会事業について.....	1
第21回学術集会（神戸）のお誘い.....	2
第21回学術集会のご案内 - 第2報 -.....	2
私の県の「ここが特色」⑰.....	4
「東日本大震災を経験して一被災地の今」③.....	4
参加報告「実践的指導力のある教員養成—大 学基準協会と文科省課程認定」.....	5
トピックス「生きる力」を育む小学校保健教 育の手引きが発行されました.....	5

2013年度「研究助成金研究」の経過報告.....	6
2014年度「研究助成金研究」の募集と第21回学術 集会での「投稿奨励研究」の推薦について.....	6
学会誌第17巻第2号投稿原稿の募集.....	7
「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集 （第二版）」の販売について.....	7
理事会等の活動報告.....	7
事務局より.....	8
編集後記.....	8

### ◇◇ 2013年度の学会事業について ◇◇

日本養護教諭教育学会理事長 三木 とみ子

昨年、設立 20 周年を迎えた。これを期に第 20 回学術集会の場において、「記念式典」、「歴代理事長によるミニシンポジウム」「学会のあゆみの展示」等を開催した。また、すでに皆様のお手元に送付したように、「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集（第二版）」及び「学会設立 20 周年記念誌」を発行した。ここではこれらを踏まえ 2013 年度の事業の概要を述べる。

#### 【学会活動関係】

- ①養護教諭の専門領域に関する用語の解説集（第二版）」に対する会員からの意見等に基づき引き続き検討し、さらに活用しやすいように改善する。
- ②養護教諭の資質向上や力量形成に関する活動として「養護教諭の倫理綱領」に関する検討を関連団体と連携をとりながら実施する。
- ③学術集会における一般発表の演題区分の精査に向けて検討する。

#### 【学術関係】

- ①研究助成金研究募集  
会員の皆様にわかりやすいようにハーモニーまたはHP等で周知する。この事業のさらなる充実発展を図る。
- ②投稿奨励研究を第 21 回学術集会の一般演題の中か

ら担当座長、年次学会長、理事等の推薦に基づき、学会誌への投稿を選定、奨励する。

#### 【学会誌編集・機関紙】

- ①引き続き「学会誌」は年 2 回発刊する。学会誌は学術集会と共に学会の顔とも言われている。優れた実践を研究的にまとめ、学会誌への投稿を通して、実践の一般化を図る意味を今一度確認し、さらなる学会誌の充実を図る。
- ②機関紙ハーモニーを年 3 回発行し、学会活動の様子、年次学会学術集会（2013 年度は兵庫県にて北口学会長）に関わる最新情報や演題募集、プログラムの紹介等の情報を提供する。
- ③機関紙ハーモニーの紙面上において会員の情報を提供し合いさらなる会員の交流の場を広げる。  
以上、学会活動、学術、学会誌編集・機関紙の発行等学会の主な事業を中心に 2013 年度の事業を紹介した。この他にこれらの事業を支える総務関係の活動として庶務、会員管理、会計管理等々の業務を行っている。  
2013 年度は学会創立 21 年目として新たにスタートした。養護教諭に関わる動向は中央教育審議会答申、学校保健安全法の改正等々大きく変化しその実践が展開している。本学会は、これらの実践を学術研究として一般化できることを願い役員一同さらなる努力をする次第である。会員の皆様のご理解とご協力を心から願う。

## 日本養護教諭教育学会 第21回学術集会(兵庫)のお誘い

学会長 北口 和美  
(近大姫路大学：前大阪教育大学)

日本養護教諭教育学会第21回学術集会将2013年10月12日から13日に港町神戸の「シーサイドホテル舞子ビラ神戸」で開催致します。学会20年の歴史と歩みを踏まえ、これからの学会はいかにあるべきかを同時に問われる中、その役割を重く受け止め、次の時代を切り開く学術集会になるよう実行委員一同、努力を重ねております。

今回の学術集会是「養護教諭の職の深化を究める」ことをメインテーマとしました。子ども達の心身の健康を保持増進し、教育の効果に資するという職の確かさを確立する。多様な養成教育が行われる中で、養護教諭の力量形成、資質向上を図るという共通した課題への取り組み。さらに、養護教諭教育学会と冠するが、子ども達の健康問題を解決するためには、様々な人々との連携なしには解決できない時代である今、養護教諭に限らず、同じ課題や興味を持った人々が、新しい知見、実践、研究を発表・討論できる場にしたいと考えています。それが今後の学会の社会的存在意義を確かなものにしていくと考えます。

養護教諭の職を究める中で、これからの養護実践を創造していく機会としたいと思います。皆様のご参加をお待ちしています。

### 第21回学術集会のご案内—第2報—

実行委員長 大平 曜子  
(兵庫大学)

#### 1. 期 日

2013年10月12日(土) 12:30～17:40

10月13日(日) 9:20～15:45

プレコンgres

2013年10月12日(土) 10:00～11:30

#### 2. 会 場

シーサイドホテル舞子ビラ神戸

〒655-0047 神戸市垂水区東舞子町18-11

TEL: 078-706-7824

#### 3. メインテーマ

「養護教諭の職の深化を究める」

#### 4. 内 容

【10月12日(土)】9:40～受付

1) 学会長講演 12:30～13:20

「養護教諭の職の深化を究める」

2) シンポジウム 13:30～15:30

「養護教諭の職の深化を究める

—3つのステージの今、これから—」

コーディネーター

出井 梨枝(元園田学園女子大学)

大平 曜子(兵庫大学)

シンポジスト

岡田加奈子 日本養護教諭養成大学協議会会長

細川 愛美 神戸市教育委員会事務局指導部

総合教育センター指導主事

西川 優子 長崎県五島市立玉乃浦中学校

養護教諭

津谷 治英 神戸新聞文化生活部 デスク

3) ミニシンポジウム 15:40～17:40

テーマ —養護教諭のこれから—

ミニシンポジウムⅠ 「養護教諭のキャリア形成」

ミニシンポジウムⅡ 「養護教諭をめぐる課題」

ミニシンポジウムⅢ 「養護教諭の役割」

【10月13日(日)】8:50～受付

1) 一般口演・口演示説 9:20～10:35

2) 教育講演 10:40～12:10

「非配偶者間人工授精で生まれた子どものサポート」

講師：横浜市立大学附属市民総合医療センター

感染制御部 医師 加藤 英明 氏

3) ランチョンセミナー 12:20～13:10

ランチョンセミナー参加は事前に募集します。

4) 総会 13:20～14:20

5) 学会助成研究発表 14:30～15:30

6) 一般口演・口演示説 14:30～15:45

[懇親会]

期 日：2013年10月12日(土) 18:00～20:00

会 場：シーサイドホテル舞子ビラ神戸

(懇親会費5,500円)

#### 5. 一般演題の募集

1) 口演と口演示説(ポスター発表)

2) 演題申込締切：2013年6月30日(日) 必着

3) 抄録原稿締切：2013年8月10日(土) 必着

4) 送 付 先：兵庫大学健康科学部

〒675-0195 兵庫県加古川市平岡町新在家2301

TEL: 079-427-9931(学事課)

FAX: 079-427-9771

E-mail: 21jayte@hyogo-dai.ac.jp

6. 参加費

会 員：4,500 円 (8/30 まで) 5,000 円 (9/1 以降)

会員外：5,000 円

学 生：2,000 円

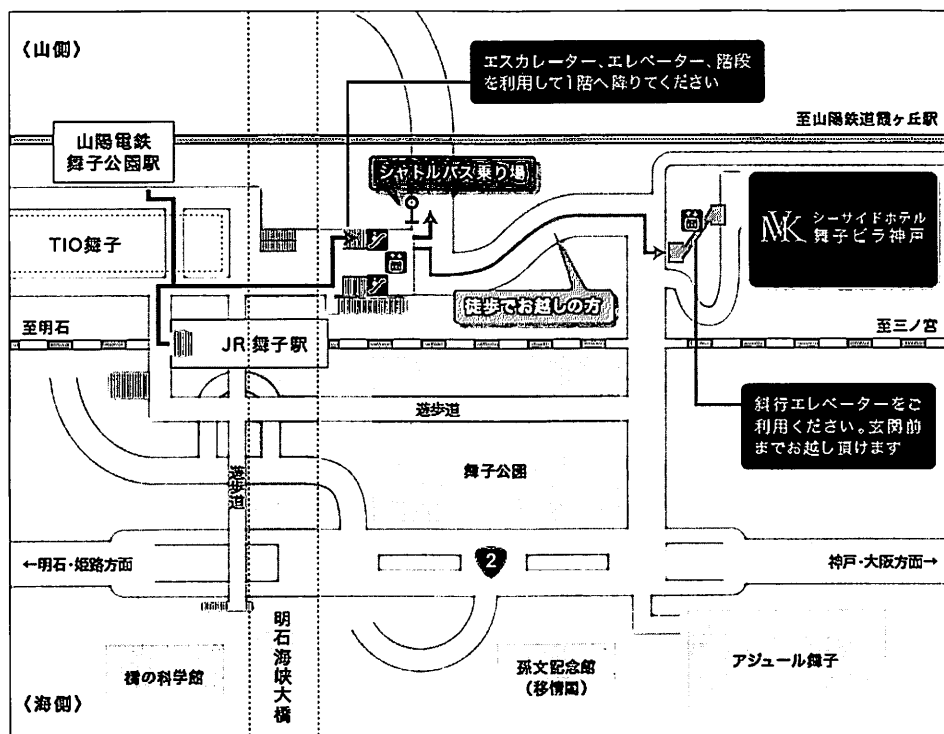
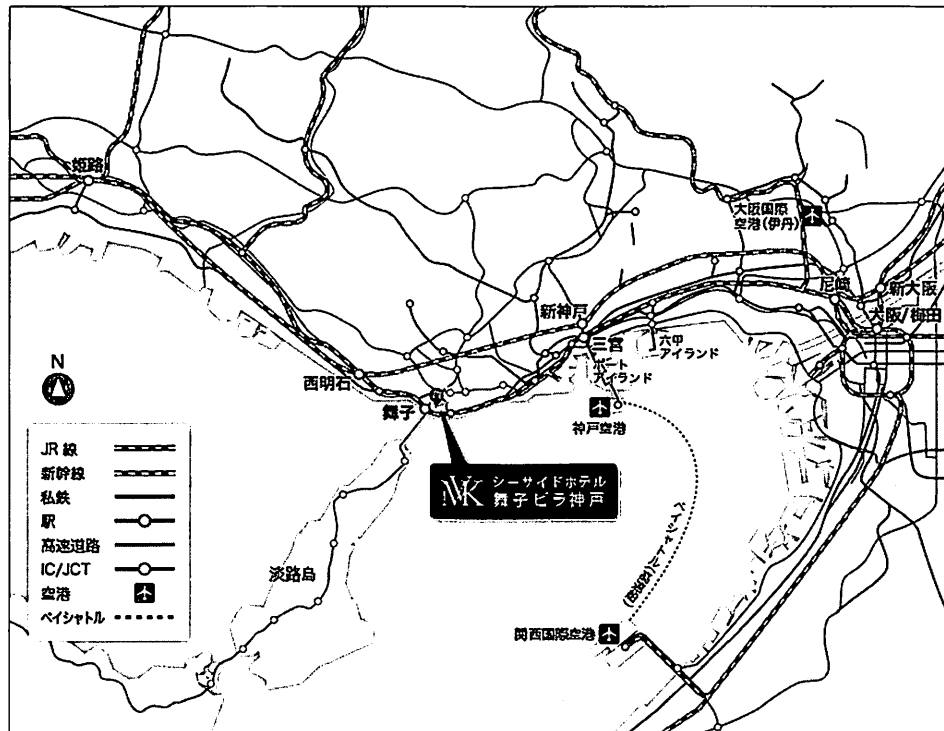
抄録集のみ：2,000 円 (送料込み)

学術集会の詳細については、学会ホームページをご覧ください。

学会場案内

シーサイドホテル舞子ビラ神戸

交通：JR 神戸線「舞子駅」、山陽電鉄「舞子公園駅」「霞ヶ丘駅」より徒歩約 7 分、舞子駅・ホテルの無料シャトルバス約 5 分



『連携をより深め、ともに復興へ』

福士 典子  
(岩手県学校保健会養護教諭部会会長)

東日本大震災からの復興に向け、現在も多くの方々、関係機関より多大なるご支援をいただいております。この場をお借りして深く御礼申し上げます。

岩手県学校保健会養護教諭部会は、会員相互の資質向上と連携を図ることを目的として岩手県内の幼、小、中、高、特別支援の全ての校種の養護教諭が会員となり活動しております。主な活動は、年1回の養護教諭研究大会の開催、実践研究に関する研修会の開催、会報や部会誌の発刊、部会ホームページの編集などです。

東日本大震災後は、支援対策委員会を立ち上げ、被災地区の学校に勤務する養護教諭への支援活動を進めてまいりました。震災直後は、保健室物品の支援物資の要望の取りまとめ、日本赤十字社へ送付する活動に始まり、岩手県立大学看護学部のご支援をいただき、心のケアにつながる「園芸療法」の研修を深めるなどの後方支援活動を行って参りました。今年2月には、震災時、子どもたちはもちろん地域の方々までの命を守るために奮闘した養護教諭の実践を記録として残し、今後の教育活動に活かすという目的で「東日本大震災にかかわる養護教諭の実践報告集 2011. 3.11 明日へつなぐーとき・いのち・こころー」を編集、2000部を作成し、会員をはじめ、ご支援いただいた方々、団体へ感謝の気持ちを込め送付することができました。震災支援をはじめ、当部会の事業を進めるに当たり、岩手県立大学看護学部とは様々な連携を深めております。24年度の第36回岩手県養護教諭研究大会では「岩手の養護教諭の今、そしてこれからを考える」と題して同大学講師 堀籠ちづ子氏のご講演をいただき、また「実践研究にかかわる研修会」では同大学准教授 井上都之氏をお迎えして「実践に活かす統計処理を学ぶ」を開催。

また、25年度は、養護教諭専修免許状取得に係る科目履修として、岩手県立大学大学院看護学研究科より講座開設時期、時間等のご配慮をいただき、同大学院看護学研究科教授 伊藤収氏、横田碧氏の「看護相談援助特論」を養護教諭7名が受講できることとなりました。こうした地元の大学との連携は本県の養護教諭の資質向上に直結しており、今後ともさらなる連携を

深めていきたいと考えております。

震災から2年2か月が経過し、一步一步復興への歩みを進めておりますが、子どもたちや養護教諭を取り巻く環境は、未だ厳しい状況があります。会員相互の連携はもちろんのこと、諸関係機関との連携を深め、部会の活動を進めて参りたいと思います。今後ともご支援の程よろしくお願い申し上げます。

特別企画 『東日本大震災を経験して  
—被災地の今—』③

「福島海や農業が元に戻る日は  
あるのでしょうか？」

笹原 和子

(福島県立磐城桜が丘高等学校  
福島県緊急時スクールカウンセラー  
<2011年3月まで同校養護教諭>)

多くの方が犠牲となった東日本大震災から2年2か月が過ぎ、この時の移ろいを早いと感じるのか、遅いと感じるのかは、被災者の方々のそれぞれの思いの中で評価されていることと思います。

筆者が居住する福島県いわき市は、震災による地震や津波の被害、東京電力福島第一原子力発電所の事故による放射能汚染が原因で、農水産物や産業が多くの被害を受けました。また、放射能汚染に対する恐怖から市民は謂れのない風評被害を受けさらに、震災以降2013年1月現在もなお、原発事故直後警戒区域等に指定された相双地区内の住民の方約24,000人の避難を受け入れています。震災や原発事故により大きな被害を受けながら、他の地区の被災者を多数受け入れているいわき市は、今回の震災を受けた他の被災地区とは実態に少し違いがあります。また、この複雑な環境の影響を高校生も受けていると思われます。

福島第一原発の事故は、国際原子力事象評価尺度が最悪のレベル7と評価されています。他に評価尺度がレベル7の原発事故を経験しているのは、1986年4月26日にソビエト連邦(現：ウクライナ)チェルノブイリ原子力発電所で起きた事故だけです。そして、チェルノブイリは今もセシウム137の汚染が主な理由で、立入禁止区域が存続しています。福島第一原発の事故でも放射能の汚染により、2012年11月30日現在「帰還困難区域」「警戒区域」「居住制限区域」「避難指示解除準備区域」などが指定されています。いわき市内では2012年11月9日現在、仮設住宅約3,300戸、賃貸住

宅約2,800世帯で相双地区からの避難者の方々が、生活をしていらっしゃいます。

特に相双地区の高校生は故郷を離れ、慣れない場所での生活を強いられ、自分を育ててくれた地域社会やそこに存在した文化、人とのつながりなどの喪失を経験しています。夢の実現に向け入学した高校を、止む無く避難先の高校に変えなければならなかった生徒も多数いました。たとえ、転校をしなくても学校がサテライト方式により、他の高校の教室を借りての授業という形で勉強をしなければならないこともありました。今なお、この形が継続している学校もあります。

いわき市の高校生も地震や津波の影響に加え、放射能汚染を避けるために多くの生徒が一時避難を経験しています。被害により、仮設住宅や被災者アパートに入居している生徒もいます。

筆者の勤務校の実態調査では、2012年1月現在の在校生のうち「自宅に被害があった生徒」は51.3%「警戒区域等に自宅があった生徒」は9.7%「自宅に被害が無かった生徒」は35.2%でした。放射能汚染に対する不安理由の上位は「身体や健康への影響の出かたがわからない」が72.4%「10年～20年後の病気の出現不安」が69.1%「福島県出身であることの就職・結婚への影響」が68.7%でした。「不安」は月日が過ぎてもなお、強くなる傾向を示した学年もありました。

生徒は、いわき市や相双地区のシンボルであり、生活の糧でもあった海で「海水浴や釣りができなくなった」ことを、居住地域が受けた影響の一番だと回答しています。「浜っ子」が浜っ子らしい生活、自分たちが生産した農産物が放射能検査を受けることなく市場に出回ることができる日がくることを願い、筆者はできる限り今後も生徒たちに関わっていきたいと思っております。

## 《参加報告》

### 「実践的指導力のある教員養成－ 大学基準協会と文科省課程認定」

鎌田 尚子 (高崎健康福祉大学)

「教員養成教育の『質保証』システムを創る」テーマで、3月20日にTKPガーデンシティ品川において、東京学芸大学プロジェクトチーム主催「教員養成教育の評価等に関する調査研究(中間報告)」フォーラムが開催された。これは、中教審答申「教職課程の質保証、優れた実践的指導力を持つ教員養成教育の評価システム」(2012年8月28日)に基づいて全国代表研究者が

研究しているもので、養護教諭は入っていない。養護教諭養成の関係者の間でも未だ話題になっていない。

学部の教員養成を対象としたものであるが、社会の変化に対応する優れた教師の養成、適正人材の選考・選抜、大学教育の評価体制、大学基準と評価基準等々が研究議論され、大学院、教職大学院の充実と新しい免許制度に対応することをめざしている。いずれ養護教諭にとっても、免許法の改正や養成教育カリキュラムの専門性担保の検討等が必要になると考えて参加した。すなわち、養護教諭の養成教育と免許科目について、文科省の課程認定の在り方と養成カリキュラムの目標と教育内容の評価基準が問われる。日本養護教諭教育学会は、日本養護教諭養成大学協議会と協力して「自らの基準づくり」の検討、および「自らの基準」を補完し自律性と専門性を保証する「養護教諭の倫理綱領(案)」の承認をする必要があろう。

#### プログラムの紹介

##### I部：講演 挨拶

1) 基調講演「『学び続ける教員像』と教員養成教育の質保証」(文科省)

2) 「教員養成教育の評価等に関する調査研究」の概要

3) 教員養成評価プロジェクト検討内容報告

##### II部：パネルディスカッション

「優れた教員養成機関をどうサポートするか」

詳細は、日本教育新聞4月25日企画特集11面を参照下さい。

## トピックス

### 「生きる力」を育む小学校保健教育の 手引きが発行されました

鈴木 裕子 (学会誌編集担当常任理事)

小学校における保健教育は、体育科を中心に各教科等において、それぞれの目標や内容に即して指導が行われています。文部科学省では、学習指導要領の改訂等を踏まえ、学校における保健教育の基本的な考え方を示すとともに、学級担任等が授業を行う際に参考となる体育科、特別活動、総合的な学習の時間の事例や相互に関連するためのポイント等を掲載した「『生きる力』を育む小学校保健教育の手引き』を作成し公表しました。

第1章では指導の基本的な考え方、第2章では体育保健領域、特別活動、総合的な学習の時間の具体的な指導例、第3章では保健教育を効果的に進めるための留意事項について示しています。養護教諭が学級担任や関係者と連携して保健教育を推進するうえでの参考

になると思われます。

本文のPDFは文部科学省のホームページからダウンロードすることができます。

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/kenko/hoken/1334052.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/1334052.htm)

また、これとは別に「学校において予防すべき感染症の解説」も発行され、同様にダウンロードできますのでご参照ください。

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/kenko/hoken/1334054.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/1334054.htm)

## <2013年度「研究助成金研究」の経過報告>

### 「喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育の系統的指導計画の開発と評価—健康教育実践における養護教諭のマネジメント力向上の検証—」

研究代表者 西村 孝江  
(倉敷市立粒江小学校)

この度、学会助成金対象研究として本研究を採択していただき誠にありがとうございます。本研究は、平成23年度から、岡山県小教研倉敷支会西地区健康教育部会(養護部)で取り組んできた喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育の取組の一環です。とくに本研究は、喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育を一体化した健康教育の指導計画を、共同研究として系統的・組織的かつ継続可能なものとして開発する取組の中で、参加した養護教諭が、どのようにマネジメント力を向上させているのかについて焦点を当て、検証することを目的としています。

平成24年度は、地区内の12小学校の各学校について、養護教諭からみた子どもの実態と教育課程における特別活動等の具体的教育内容・方法を調査し、その結果を基にそれぞれの学校の実態と子どもの発達段階に応じた系統的かつ継続可能な指導計画案を作成して各校の教育課程に位置付けました。平成25年度には、この健康教育実践を展開しながら、養護教諭のマネジメント力を、テクニカル・スキル、ヒューマン・スキル、コンセプチュアル・スキルの各項目から評価する計画です。今後とも、会員の皆様のご指導・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

### 「養成大学における養護教諭初任者支援 研修プログラム開発」

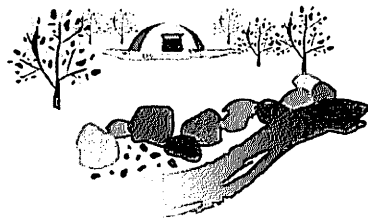
研究代表者 櫻田 淳  
(埼玉県立大学)

2013年度研究助成金対象研究として採択していただき感謝申し上げます。

共同研究者は、北口和美(近大姫路大学)、大原榮子(名古屋学芸大学短期大学部)、大嶺智子(杏林大学)、加納亜紀(聖泉大学)です。

本研究は、養成大学における養護教諭初任者支援研修プログラム開発を目的としています。養護教諭は初任であっても専門職として実践的能力が求められます。初任者研修・5年研修などの研修が法令化されておらず、各自治体で差があります。養成大学では、養成教育の充実と併せて、教育委員会・学校現場と連携した生涯を通じて養護教諭の資質向上を支援していく役割が求められています。特に初任者への支援体制の整備は、喫緊の課題と考えています。このような背景から、本研究は①初任3年以内の養護教諭を対象に必要な研修内容の実態調査 ②養成大学で実施している卒後研修の実態調査 ③各自治体の教育総合センターで実施している研修プログラムの調査の3つの視点から取組んでおります。

学会員のみなさまのご協力・ご支援いただき進めたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。



### 2014年度「研究助成金研究」の募集と第21回学術集会での「投稿奨励研究」の推薦について

高橋 香代(学術担当常任理事)

2014年度研究助成金対象研究の募集を開始します。研究助成金対象研究は、学会共同研究とは異なり、会員が自主的に応募する研究です。学会員の皆様には、ぜひ積極的に申請をお願いします。

2014年度の研究助成金研究申請の締切は、2013年9月10日(火)です。学会ホームページから申請書をダウンロードして、締切日までに学術担当理事まで申請をお願いします。申請された研究は、理事会で選定基準に基づいて審議し、年次総会に提案して承認を受けます。選定作業は、会員資格、研究の目的・独自性、研究方法、助成金の使途など選定基準(2006年度総会承認)に則って行います。採択件数は2題で、研究助成金は1件10万円です。研究助成金を受けた研究は、その成果をハーモニー、学術集会及び日本養護教諭教育学会誌に発表することが義務づけられています。

また、第18回学術集会から発足した「投稿奨励研究」

の推薦は、第21回学術集会でも実施いたします。年次学術集会で会員が発表した一般演題の中から、学術集会学会長、座長、日本養護教諭教育学会役員によって、投稿奨励研究が推薦されますので、会員の皆様には奮って演題発表をお願いします。

### 学会誌第17巻第2号の投稿原稿の募集

齊藤 ふくみ (編集委員会事務局)

学会誌第17巻第2号の投稿原稿(論文)を募集しています。論文の投稿は年間を通して受け付けていますが、目安として第17巻第2号(2014年3月発刊予定)への投稿は2013年9月30日(月)必着とします。投稿される際には、投稿規定(学会誌第16巻第2号97-102頁)を熟読されて、十分推敲された原稿をご投稿ください。査読に大幅に時間がかかる場合は、次号以降に掲載が延期されることがありますのでご承知ください。

以下に留意点を挙げますので、ご一読ください。

- 投稿資格：本学会会員であること。
  - 論文の内容・テーマ：本学会の目的(会則第2条「本学会は、養護教諭教育(養護教諭の資質や力量の形成及び向上に寄与する活動)に関する研究とその発展を目的とする」にかなう論文であること。
  - 「研究目的・研究方法・結果・考察」が論理的に一貫していること。
  - 倫理的に問題がないこと(学会誌第16巻第2号96頁の本学会倫理綱領を参照のこと)。
  - 原稿の種類：論壇、総説、原著、研究報告、実践報告、調査報告、研究ノート、資料、その他です。原稿は未発表のものに限ります。
  - 原稿の頁数：タイトル、抄録(原著の場合)、本文、図及び表を含めた規定枚数は下表のとおりです。原稿2枚は刷り上がり1頁に相当します。規定枚数を超過しますと、1頁当たり5千円をご負担いただきます。できるだけ規定枚数におさまるよう、原稿の推敲を十分にさせていただきようお願いいたします。
- なお、2012年度より編集委員会事務局は以下に変更になりました。ご投稿および問い合わせはこちらをお願いいたします。

〈編集委員会事務局〉

〒310-8512 水戸市文京2丁目1番1号

茨城大学教育学部教育保健教室 齊藤ふくみ

TEL / FAX 029-228-8298 (研究室直通)

e-mail : fukumi@mx.ibaraki.ac.jp

※学会事務局とは異なりますので、ご注意ください。

### 原稿の種類と規定頁数(本学会誌投稿規定10.)

原稿の種類	規定頁数
論 壇	1編1頁
総 説	1編5頁
原 著	1編8頁
研究報告	1編8頁
実践報告	1編5頁
調査報告	1編5頁
研究ノート	1編5頁
資 料	1編5頁
そ の 他	1編5頁

### 養護教諭の専門領域に関する用語の解説集(第二版)の販売について

今野 洋子 (学会活動担当理事)

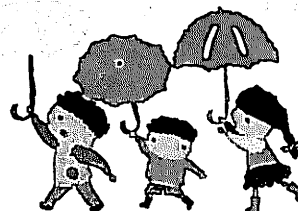
2012年10月に発行いたしました「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集(第二版)」を500円で販売しています。

「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集(第二版)」は、養成・研修・実践のどの段階においても役立つ1冊です。

改めて養護教諭について考えるとき、たしかな拠り所となります。日常の養護教諭の実践の根拠が示されています。学習会でともに学ぶ時もこの解説集で確認しながら進めることができます。また、養成教育においても活用でき、養護教諭に関わる用語を吟味しながら、学生が養護教諭について考えることができます。

今後、さらに、第三版の発行も考えております。そのためにも、ぜひ広くみなさまに「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集(第二版)」をご活用いただき、忌憚のないご意見をいただきたいと考えております。

購入希望の方は、メールまたはFAXで学会事務局までご連絡ください。



## 理事会等の活動報告

下村 淳子（総務担当常任理事）

2012年度中に開催した理事会・編集委員会の議事内容は次の通りです。

### ☆理事会

#### 1. 2012年度第1回

日時：2012年4月15日（日）

場所：名古屋市公会堂（名古屋）

内容：2012年度理事会体制・役割分担の確認、2012年度事業計画、第20回学術集会進捗状況等

#### 2. 2012年度第2回

日時：2012年7月14日（土）

場所：女子栄養大学駒込キャンパス（東京）

内容：2012年度総会の議案の確認、総会の運営、2011年度決算・2012年度予算案、2012年度事業経過報告、第20回学術集会準備状況等

#### 3. 2012年度第3回

日時：2012年10月5日（金）

場所：愛知学院大学栄サテライト（名古屋）

内容：2012年度総会の運営及び議案の確認、2011年度会計監査報告、研究助成金対象研究の採択、2012年度事業経過報告、20周年記念集会の役割分担等

#### 4. 2012年度第4回

日時：2013年1月13日（日）

場所：女子栄養大学駒込キャンパス

内容：2012年度総会総括、第20回学術集会の総括と次期学会への申し送り事項の確認、2012年度事業経過報告、2013年度に向けた活動計画等

### ☆編集委員会

#### 1. 2012年度第1回

日時：2012年6月3日（日）

場所：女子栄養大学駒込キャンパス（東京）

内容：2012年度編集委員会体制・役割分担の確認、学会誌第16巻第1号の編集計画、ハーモニー第59号の企画等

#### 2. 2012年度第2回

日時：2012年7月15日（日）

場所：キャンパス・イノベーションセンター（東京）

内容：学会誌第16巻第1号の掲載原稿について

#### 3. 2012年度第3回

日時：2012年10月5日（金）

場所：愛知学院大学栄サテライト（名古屋）

内容：学会誌第16巻第1号編集総括、第16巻第2号編集計画、ハーモニー60号の企画等

#### 4. 2012年度第4回

日時：2013年1月14日（月）

場所：キャンパス・イノベーションセンター（東京）

内容：学会誌第16巻第2号の掲載原稿について、査読要領の検討等

◇その他、編集・校正作業のため編集小委員会を6回開催しました。開催日は以下のとおりです。

2012年7月28日（土）、2012年8月26日（日）（以上、関西福祉科学大学）、2012年9月8日（日）、2013年2月3日（日）、2013年2月23日（日）（以上、キャンパス・イノベーションセンター）、2013年3月7日（木）（茨城大学）

## 事務局より

圓岡 和子（事務局長）

今年度も昨年度に引き続き事務局を運営してまいります。どうぞよろしく願いいたします。新年度になり、勤務先等変わられた方は、すみやかに事務局までメールかFAXで変更届を提出してください。

さて、本学会の会員は730名を超えましたが、三木理事長のもと一層の会員拡大を目指しておりますので、周りの方でまだ学会員でない方がいらっしゃいましたら、本会へのご入会をおすすめください。

また、昨年度、発行しました「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集〈第二版〉」を有料でお譲りしています。10冊以上ご注文された場合には送料無料でお送りいたします。お知り合いにもどうぞご紹介してください。その他何かお気づきの点がありましたら、FAX、メール等でお知らせください。今後ともご理解とご協力をお願いいたします。

## 編集後記

編集作業の手を休め、ふっと外を眺めるとしおれていた紫陽花が雨で元気をとりもどしていました。乾いていた土地が梅雨に入り潤されています。ハーモニー61号が皆様の元に届く頃には、ここから見える紫陽花も青さを増しているでしょう。そんな花々を眺めると心が潤されます。（古賀）

